

平成30年度下半期 練馬区地域ケア圏域会議 実施状況一覧

圏域	実施日	参加者(関係機関等)	数	テーマ/目的	検討結果
練馬	H31. 3. 4	民生委員、三療師会、コンビニエンスストア、東京大学講師、地域活動団体、介護サービス事業所、地域包括支援センター、総合福祉事務所	34人	<p>【テーマ】 認知症高齢者の住みやすい地域づくりについて</p> <p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括支援センターが関わっている高齢者の居場所づくり等の情報を共有する。</li> <li>・練馬圏域で高齢者の居場所づくり等を行う団体の活動を共有する。</li> <li>・参加者からの情報をもとに課題を抽出する。</li> <li>・練馬圏域で実施された地域ケアセンター会議等の報告を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「地域の高齢者が気兼ねなく集まれる場がほしい。」「自分が認知症になったら気づいてくれる人がいてほしい。」「認知症になる前からの地域のつながりが大切である。」などの意見があった。</li> <li>・実際に地域で活動する団体発足のきっかけや取り組みを共有できた。</li> <li>・地域包括支援センターが認知症相談の窓口となることを周知できた。</li> <li>・高齢者が住みやすい街づくりを行うためには、更なる認知症への理解が必要である。</li> </ul>
光が丘	H31. 2. 25	成増厚生病院（東京アルコール医療総合センター）、慈雲堂病院、陽和病院、メンタルケア協議会、練馬警察署、光が丘警察署、光が丘消防署、訪問看護ステーション、民間救急（移送事業者）、地域生活支援センター、練馬区保健所、地域包括支援センター、総合福祉事務所	30人	<p>【テーマ】 入院が必要な精神疾患を有すると思われる方の精神科病院への安全な移送について</p> <p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・精神科救急に関わる関係者ネットワークの構築を図る。</li> <li>・成増厚生病院副院長（東京アルコール医療総合センター長）からアルコール依存症についての講義をお願いし、関係機関から精神疾患を有すると思われる方の安全な移送を中心に報告・ご意見をいただく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神科救急の現場は関係機関の想像を超える困難な対応により成り立っていることが各協力機関からの報告で明らかとなった。</li> <li>・一方、当事者にとってみれば「入院はゴール」ではなく、強制的入院という形をとらざるを得なかったとしても退院後の自立支援に向けて、関係者が当事者・家族との信頼関係に着目し、当事者にとって強制的入院がトラウマとして残らないような支援が必要だとの指摘もあった。</li> <li>・精神科救急に関係する機関がこれだけ集まって現状を相互に確認する機会は少ない。今回の会議を契機として地域包括支援センター・福祉事務所と関係機関の連携が高まることが期待できる。</li> </ul>
石神井	H31. 3. 6	民生委員、石神井警察署、三療師会、石神井保健相談所、関保健相談所、地域包括支援センター、総合福祉事務所	22人	<p>【テーマ】 高齢者の住みやすい地域づくりについて</p> <p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関係機関の連携、情報共有を図る。</li> <li>・課題解決に向けた解決案を検討する。</li> <li>・地域ケアセンター会議等の報告を行い共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・石神井圏域内には公営住宅等の集合住宅が多くあり、高齢化が進んでいる。自治会の担い手も少なくなり、見守り機能も低下している状況がある。</li> <li>・「見守りを行っているが、認知症かどうかの情報がなく苦勞する。近隣から連絡をもらい訪問し、認知症の心配があればセンターにつないでいる。自治会がない集合住宅は情報が集まりにくい。」などの意見があった。</li> <li>・認知症高齢者、精神障害を抱える子と同居の高齢者、生活困窮など複合的な課題を抱えた家族が多く、問題解決には関係機関の連携が必須である。</li> </ul>
大泉	H31. 3. 1	民生委員、三療師会、介護サービス事業所、地域包括支援センター、総合福祉事務所	22人	<p>【テーマ】 高齢者の買い物事情</p> <p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大泉圏域で実施された地域ケアセンター会議等の報告を行う。</li> <li>・大泉圏域版の「食料品アクセスマップ」「買い物支援お助けBOOK」を用いて、地域毎の買い物に関する特性を知る。</li> <li>・どのような支援や工夫があれば買い物がしやすくなるか、自分で買い物をし続けられるかを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の買い物については、「自分で見て買いたい、自分で選んで買いたいという方が多い。」「介護保険サービスによる支援だけでは難しい地域がある。また、嗜好等個別対応は今後の課題ではないか。」「商店街閑散により買い物が不便、困難になった地域がある。」「コンビニに頼っている方もいる。」などの状況や課題が把握された。</li> <li>・「買い物に行く、見て選ぶことが生きがいや楽しみである」という高齢者が多いことが確認できた。</li> <li>・サービスを新設するだけでなく、既存の介護サービスやコミュニティを工夫して活用することにより、買物弱者を支援できる可能性や方法について検討できた。</li> </ul>